

Asian SMEs Review 編集委員会 規程

第1条：*Asian SMEs Review*の目的と特色

Asian SMEs Review(*ASMER*)では、環東アジア地域の中小企業についての研究・先進事例を紹介する。*ASMER*は、国内外における研究者、大学院生、企業関係者、会計士・税理士などが協力して研究をおこない、ワーキングペーパーシリーズでその研究成果を共有する媒体である。研究方法は実務に役に立つ、事例研究、理論研究、規範的研究、実証研究などの、いずれでもよい。

第2条：*Asian SMEs Review*の出版形態：

*ASMER*はWeb雑誌として発行し、随時投稿を受け付ける。*ASMER*は、ワーキング・ペーパー形態のイシュー論文として出版する。そのため、他の学会誌への投稿を妨げるものではない。ある一定数の論文が集まった段階で、編集委員会の決定による論文集を出版し、各号にはシリーズ番号を付けていく。

第3条：編集委員会の構成、編集委員長と編集委員会の役割

*ASMER*では、ワーキング・ペーパーを刊行するために、*Institute of SMEs Knowledge Network Portal*に参加する海外の教員を含む国際的な常設の編集委員会 (editorial board) を設け、その構成員の選任と解任を行う。編集委員長は、ワーキングペーパーシリーズ編集者として、実際の編集事務活動に携わる編集委員からなる編集委員会を総括する。編集委員会はワーキングペーパーシリーズの各号に関する(1)発刊時期の決定、(2)客員編集者の選定、(3)当該号の構成について審議する。

第4条：編集委員会の構成員

編集委員長

Gunyung LEE, Niigata University JAPAN

編集委員

Satoshi ARIMOTO, Niigata University JAPAN

Yasuyuki KISHI, Niigata University JAPAN

Ryoji ITO, Niigata University JAPAN

Eiko TOMIYAMA, Graduate Institute for Entrepreneurial Studies JAPAN

Sungwhan PARK, Hanbat National University KOREA

Minghsiang HUANG, National Changhua University of Education TAIWAN

第 5 条：審査制度

投稿論文に対しては編集委員会にて、掲載の可否に関する審査を行う。編集委員長は論文の質を保証し、かつワーキングペーパーシリーズの内容の質を保証できるように管理する。投稿論文の審査は、編集委員長が編集委員のなかから審査委員を選定し行う。

Asian SMEs Review(ASMER) 投稿規程

1.投稿資格

Asian SMEs Review(ASMER) への投稿資格は、原則として *Institute of SMEs Knowledge Network* に参加している国内外の研究者、大学院生、企業関係者、税理士等である。ただし、編集委員会が認めた者の投稿も認める。

2.投稿論文の種類と領域

投稿の対象となる論文は、中小企業に関連する諸問題を取り扱ったものであり、他の雑誌に同時に投稿されていないものに限ることを原則とする。投稿論文は、1)研究論文、2)事例研究論文、3)その他 である。

3.投稿言語

投稿する論文は、英語・日本語・中国語・韓国語のいずれかの言語で投稿することができる。英語以外の論文は必ず英語のタイトル・要旨を付けることとする。

4.投稿様式

投稿論文の様式は別紙 1（執筆要領）のように定める。

5.投稿方法

論文は指定された電子ファイル形式（MS-Word と Adobe PDF）で保存し、各国の編集担当者までメール添付で送信すること。

日本 編集担当者：Yasuyuki KISHI, knowledge.network@econ.niigata-u.ac.jp

韓国 編集担当者：Sungwhan PARK, psh630@hanbat.ac.kr

台湾 編集担当者：Minghsiang HUANG, mhhuang@cc.ncue.edu.tw

別紙 1 (執筆要領)

Asian SMEs Review Working Paper Series 執筆要領

この執筆要領は、Asian SMEs Review Working Paper Series (以下、WP) に投稿される論文の執筆に関するガイドラインです。WP の作成に際しては、この執筆要領にしたがって論文を作成して下さい。

1. 論文には、論文タイトル (執筆言語・英語)、氏名・所属 (執筆言語・英語)、メールアドレス (共同論文の場合には、代表者のメールアドレスのみを記載する)、要旨 (執筆言語、400 字以内)、キーワード (執筆言語、5 項目程度)、本文 (図・表を含む)、注、参考文献を記述する。
2. 原稿の枚数は 10 ページ以内とする。
3. 原稿の書式と頁数
 - (1) 原稿の作成には、ワープロ(Microsoft Word)を使用する。
 - (2) 用紙は A4 サイズ、横書きで、文字数は MS-Word の標準書式とする。
 - (3) 日本語のフォントには、論題、セクション (節・項) の見出しを MS ゴシック、本文を MS-明朝、英語のフォントには Times New Roman とする。
 - (4) 文字の大きさは、次のとおりとする。

区分	サイズ/フォント	配置等
主題(タイトル)	14 ポイント/ゴシック, 太字	センタリング
副題 (サブタイトル)	12 ポイント/ゴシック, 太字	: を付けて, センタリング
執筆者	12 ポイント/ゴシック, 太字	センタリング
所属	10.5 ポイント/明朝	センタリング
要旨	9 ポイント/ゴシック	左寄せ
キーワード	9 ポイント/ゴシック	左寄せ
本文	10.5 ポイント	左寄せ
節	12 ポイント/ゴシック	センタリング
項 (節内の小見出し)	10.5 ポイント/ゴシック	左寄せ
参考文献	10.5 ポイント	左寄せ
注	9 ポイント	左寄せ

- (5) 主題と名前の間には 10.5 ポイントの大きさに 1 行空ける。
- (6) 名前と要約の間には 10.5 ポイントの大きさに 1 行空ける。
- (7) 節と本文の間には 10.5 ポイントの大きさに 1 行空ける。

3. 本文

(1) 本文は、節・項で構成し、以下のように付番する。

(例) 4 ——

4.1 ——

4.1.1 ——

(2) ビリオド(.), コンマ(,)を使う。

(3) 本文は、均等割付を行う。

4. 本文中の引用

引用に際しては、著者名、出版年、引用ページ数を記載し、カッコでくくる。文献の文章をそのまま引用する場合には、引用符(「」)で示す。

5. 参考文献

(1) 使用した文献はすべて論文の最後に参考文献リスト(References)として記載する。文献は第一著者の姓(ファミリーネーム)をアルファベット順に並べる。

(2) 文献は次の順序で表記する。

単行本：著者（编者）名，出版年，書名（副題とも）・版，発行所。

論文：著者名，発行年，論文名，収録書物の著者（编者）名，収録書物名（または雑誌名），巻数，号数，ページ数。

(3) 著者が複数いる場合は、著者をコンマで区切る。著者が示されていない場合には、文献の題名から書き始める。

(4) 出版年は、著者の記載の次に、括弧（ ）を用いて出版年を記述する。括弧を閉じた後にピリオドを入れる。

(5) 英語の書名と雑誌名は斜体(イタリック)にする。また英語の書名等は主題，副題ともに最初の単語の最初の文字のみを大文字とする。

例

英語文献の場合

Anthony, R. N. (1984). Management Control Function, Harvard Business School Press.

Noreen, E. (1991). Conditions under which activity-based cost systems provide relevant costs. *Journal of Management Accounting Research*, 3(4), pp.159-168.

日本語文献の場合

井尻雄士(1970).『計数管理の基礎』, 岩波書店.

黒沢清(1953).「企業会計の技術的構造と理論的構造」, 企業会計, 第5巻第5号, pp.52-63.